

平成25年度学校評価結果

京都市立西京高等学校附属中学校

自己評価

	分野	評価項目	評価指標	分析(成果と課題)	改善策
1	確かな学力	学習意欲を高める授業の工夫 サテライト学習(補充学習)の充実 家庭学習の習慣化と充実	生徒による学習アンケート調査 教職員ヒアリング・保護者アンケート ペネッセ学習実態調査アンケートの分析	・ペネッセ学力推移調査(11月実施)では、各学年とも経年変化において順調に推移しており、良好な結果が得られた。ただし、全学年とも平日の家庭学習時間において、教科による差が見受けられた。 ・3年生は各種模擬テストや前期選抜テストにおいて良好な結果が得られ、平日の家庭学習においても改善が見られた。	・3年生の高校へのより円滑な接続を図るために、教科会を中心に中高の連携をすすめ、教材研究および評価方法を検討していく。 ・家庭学習の習慣化(特に平日の予・復習)を図るため、家庭学習の課題設定(質・量ともに)において教師間での調整をおこなう。
2	豊かな心	人権意識の向上 進路展望の拡大 豊かな心の育成	道徳教育全体計画の実施状況 Q-U、クラス・マネジメントによる個別診断 養護教諭・スクールカウンセラーとの連携	・1、2年では11月に2回目のQ-Uアンケートを実施し生徒理解を深めることはできたが、3年生ではクラスマネジメントシートをおこなうことができなかった。 ・後期も、道徳・学活を中心として学校生活に人権文化を根付かせる取り組みを積極的に計画、実践できていた。しかし、さらに生徒達の意識を大きく変容させる工夫が必要である。	・各種アンケートや生徒理解調査に関する研修を定期的に設け、分析結果を活かした生徒指導を推進する意義について、教職員の理解を深めることが必要である。 ・生徒達の学びが実生活における気づきに繋がるように、さらに行動実践をともなったプログラムを企画していくことが求められる。
3	健やかな体	基本的生活習慣の確立 自己管理能力の育成 養護教諭・スクールカウンセラーとの連携	健康観察カード 全国学力学習状況調査の分析	・スクールカウンセラーと連携して、不調生徒の支援につなげることができた。今後は学びのパートナーや学生ボランティアの活用も図り、生徒達のメンタルヘルス向上を図ることが必要である。 ・継続的に実施している朝の「健康観察カード」の記入及び点検を通して、生徒の心身の健康状態の把握をすることができた。	・不登校、不調生徒への対応については、今後とも担任を中心に家庭と十分に連携し、学年や養護教諭、関係機関等が協力して指導体制を充実させていく。 ・学年懇談会や保護者面談等を通じて、保護者に対する情報発信を丁寧におこない、課題を抱えた生徒の保護者が孤立しないように支援していきたい。
4	学校独自の取組	中高一貫教育の推進 学校説明会・オープンキャンパス 情報発信の充実	中高合同研修会・教育構想推進会議 教職員ヒアリング・保護者・児童アンケート 学校HPの更新状況	・学校説明会等で、本校独自の取り組み、教育目標についての理解を促したが、今後もさらに継続することが求められている。 ・中高一貫教育推進委員会を中核として、「育てたい生徒像」についての共通理解をさらに深めることができた。 ・学校HPでは、本校独自の教育活動を伝えることに腐心し、一定の効果を収めている。	・保護者による学校評価アンケートや、生徒による学習アンケート(授業評価)などを真摯に受け止め、生徒や保護者に信頼される学校づくりをめざしていく。 ・平成25年度から完全実施されている高校の新学習指導要領に対応した中高一貫教育カリキュラムの充実を図る。

学校関係者評価

評価結果	改善に向けた支援策
例年のことながら、保護者の本校教育内容に対する関心や本校教員に対する期待(教科指導・生徒理解等)は非常に高いものがあり、現状の課題に対応した研修や、定期的な個別の面談によって、教職員の指導力向上を図る取り組みを継続していく必要がある。同時に、保護者に対する適切な情報提供や啓発をおこない、相互に生徒理解を深める努力をおこなっていくことが求められている。	保護者理解を得るための説明機会の確保とその内容について、学校評議委員の方々から助言をいただくとともに、今後教職員に求められている研修課題についても優先事項をお示しいただくことで、効率的な校内研修等がおこなえるよう支援していただく。